



大紀で民泊PRなど提案

愛知淑徳大・前島准教授のゼミ生

愛知淑徳大交流文化学部で観光や地域活性の政策を学ぶ前島訓子准教授のゼミ生十三人が七日、大紀町野原の野原集会所で服部吉人町長や地域住民に、町内の交流施設や民泊事業に対する考えを発表した。

十三人は三班に分かれ、昨年十一月から町の地域活

大紀町の民泊事業の認知度向上や地域活性化についてアイデアを発表する愛知淑徳大生（中央奥）＝大紀町の野原集会所で

性の方向性に関するアンケートやインタビューを町民らにしてきた。発表では一時間にわたり、町内の交流

施設「野原工房びんき村」で子どもを呼び込むイベントの開催のほか、町内の民泊事業を知ってもらうため

に留学生を呼び込むことなどを提案した。

地域住民からは「第一次産業の衰退や空き家の増加は今後十年でさらに増える。どの町でも同じことが

起こっているので、もっと提案してほしい」などの意見が出た。

三年の奥田早希さん（二〇）は「大紀町は地域ごとに特色があり、人の輪の強さを知った。都心部にはない強みだと思つので、いい発見になった」と話した。

（谷口武）